観光イベントでおもてなし

北上駅前マルシェ・夕の市

駅前おもてなしマルシェは２日、ＪＲ北上駅西口前広場で行われました。同マルシェは、ＳＬ・イベント列車の運行に合わせ歓迎イベントとして開設。市内や西和賀町のご当地グルメ、産直加工品などが並ぶテント前には、観光客などが立ち寄っていました。

娘と一緒に訪れた遠藤好美さん(上野町)は「引っ越してきたばかりで、北上の物産を知ることができて楽しい」と話していました。このイベントは９日、16日の土曜日と日曜日の午後は夕の市も開かれました。

大勢の観光客などでにぎわった駅前おもてなしマルシェ

西本さんの熱気あふれる指導で第九を歌う合唱団と北上フィルなどの参加者

心を一つに「歓喜の歌」熱唱

西本智実による第九公開リハーサル

世界的な女性指揮者・西本智実さんによるベートーヴェン第九公開リハーサルが16日・17日の両日、さくらホールで行われました。このリハーサルは、来年同ホールが開館10周年を迎える記念公演の１年前企画として開催。17日は、西本さんが県内の公募によるさくらホール第九合唱団や北上フィルハーモニー管弦楽団を指導。岩手ゆかりのプロソリスト４人も加わり第４楽章「歓喜の歌」の通し稽古を行い、参加者などは心を一つにして「歓喜の歌」に磨きを掛けました。

五輪代表選手などと交流

実業柔道団体対抗大会少年柔道教室

第62回全日本実業柔道団体対抗大会が６月２日・３日の両日、北上総合体育館で開催されました。

大会終了後、沿岸被災地の柔道スポーツ少年団８団体を招待し少年柔道教室を開催。2012年ロンドン五輪代表選手など15人を講師に、模範演技や乱取りが行われました。終了後、北上修練館スポーツ少年団の千葉ひとみさん(黒沢尻西小６年)が「今日の指導を忘れず、技を磨き体と心を鍛えていきたい。オリンピックでは応援しています」と代表してお礼を述べました。

２００８年北京五輪70キロ級で優勝した上野雅恵選手の指導を受ける参加者

大会で初めて演じられた狂言「坪草」(村崎野大乗神楽保存会)

神楽の競演に魅力堪能

大乗神楽大会

大乗神楽大会は10日、鬼の館で行われ、伝統の舞を見ようと地元住民や大勢の神楽ファンなどが詰め掛けました。

同大会は、北上市大乗神楽連絡協議会加盟６団体が競演し、「神おろし・権現舞」を皮切りに修験山伏の行法を色濃く残す華麗で迫力ある「魔王」や「榊舞」、科白(せりふ)劇の要素を含んだ道化舞とされる「狂言」など14演目を披露。会場からは大きな拍手が送られるなど、神楽の魅力を十分に堪能していました。

3人の詩歌作品集を顕彰

詩歌文学館賞贈賞式

第27回詩歌文学館賞贈賞式は5月26日、日本現代詩歌文学館で行われ、詩部門が須藤洋平さん(南三陸町)の詩集「あなたが最期の最期まで生きようと、むき出しで立ち向かったから」、短歌部門が佐藤通雅さん(奥州市出身、仙台市)の歌集「強霜」、俳句部門が宇多喜代子さん(大阪府池田市)の句集「記憶」が受賞しました。

式典後、「大震災と詩歌」をテーマにフォーラムを開催。選考員を務めたパネリスト3人が、震災後の詩歌を紹介し創作との関わりについて意見を交わしました。

(左から)須藤洋平さん、佐藤通雅さん、宇多喜代子さん

のぼり旗の前で勇壮な舞を奉納する岩崎鬼剣舞

恒久平和願い鬼剣舞を奉納

岩崎城絵幟まつり

第30回岩崎城絵幟まつり(同実行委員会主催)は3日、岩崎城址本丸跡と岩崎地区交流センターで開かれました。同本丸跡の鎮魂碑の前では、かつてこの地を治めた和賀氏をしのぶとともに恒久平和を願って法要が行われたほか、武者絵などののぼり旗が立つ鬼剣舞供養塔前では岩崎鬼剣舞が勇壮な舞を奉納しました。

式典後、地元の子どもたちが作った1㌔ほどののぼり旗が飾られた岩崎地区交流センターに会場を移し、芸能をテーマにした講演会が行われました。

百歳の元気な笑顔満開

三田トワさん

鬼柳町にお住まいの三田トワさんが百歳を迎え1日、自宅に髙橋市長が訪問し祝い状と記念品を贈りました。

トワさんは明治45年6月1日生まれ。若いころは横浜市の病院で看護師として勤務。家族の体調が思わしくなく実家に戻ってからは、家事や近所の農作業などを手伝っていました。社交的で誰とでも仲良くなれるというトワさん。4、5年前から通っているデイサービスが楽しみとのこと。「皆さんに祝ってもらってうれしいです」と感謝していました。

髙橋市長からの祝い状を笑顔で受け取るトワさん(左)

子どもたちなどに祝福され笑顔で喜ぶキクミさん(前列左)

高橋キクミさん

口内町にお住まいの高橋キクミさんが百歳を迎え15日、市内のホテルで祝う会が開かれました。

キクミさんは明治45年6月15日生まれ。18歳で故勝雄さんと結婚し、子6人、孫14人、ひ孫17人に恵まれています。働くことが好きで、70歳近くまで自宅近くの内職工場に努め、その頃の職場の仲間たちが気遣ってくれて楽しく仕事ができたと感謝。今も時々畑仕事をすることもあり、「草花や野菜の手入れをすることが生きがい」と笑顔で話していました。